

# 「共謀罪」反対 被爆地の思い

歯科医師

(広島県 48)

集団にあたるという。

4日の日曜日、広島に初夏の訪れを告げる祭り「とうかささん」があり、街は浴衣を着た人などで溢れていた。私は初めて「共謀罪」法案反対のデモ（広島弁護士会主催）に参加した。国会で共謀罪の議論が一向に深まらないまま強行採決されようとしているからだ。

共謀罪は、計画段階からの電話、メール、SNSの傍受が捜査の手段になるはずだ。預金引き出しなどの日常行為も準備行為と解釈されれば身柄を拘束される。一般市民が属す団体も「性質が一変した」と認められれば組織的犯罪

デモ参加者は約500人。家族連れもいたが、多くは年配の人たちだった。みな口々に、参加者は顔写真を撮られ、監視されるようになるのだらうと話していた。いつもの街の風景が全く違って見えた。街中の多くの若者は何事かとデモを素直に見つめていた。

監視や尾行の対象にならないよう気を使いながら暮らさなければならぬのか。デモは原爆ドームから平和公園まで。内心の自由を奪われ、被爆で命を奪われた人たちの思い返さざるを得なかった。失敗の繰り返しは許されない。共謀罪は何といっても憲法違反だ。

## 「うっかり」への警鐘 現実味

無職

(滋賀県 77)

張っていく危険性もある「

主婦や企業退職者、画家、弁護士、経営者ら10人ほどが集まる読書会に参加して46年になる。古典を数年かけて読むこともあるが、時には時事問題を扱った書物を精読して議論を交わす。

今、樋口陽一「個人と国家」（集英社）を読んでいる。17年前の著作が不思議と真に迫るのは、その指摘が現実化しているからではないか。立憲主義を論じる章の最後、国民主権に対する著者の言葉にはっとさせられた。「うっかりしている」と、司法本来の仕事ができなくなる方向に流れを引く

実のところ、今の日本人

はほとんどが「うっかり」しているのではないか。特定秘密保護法、安全保障関連法の成立。そして今国会で審議が進む「共謀罪」法案。沖繩の米軍基地移設工事もしかり。結局は我々国民の「うっかり」が招いた事態と言えないか。私自身、読書会で議論しているだけでは「うっかり」と言われても仕方ない。無視でなくとも座視に過ぎない。

権力側はこの国民の「総うっかり」を巧みに利用しているように思えてならない。私も立ち上がり、まずは本投稿とした。